

図 2.4.8(1) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 2 月)

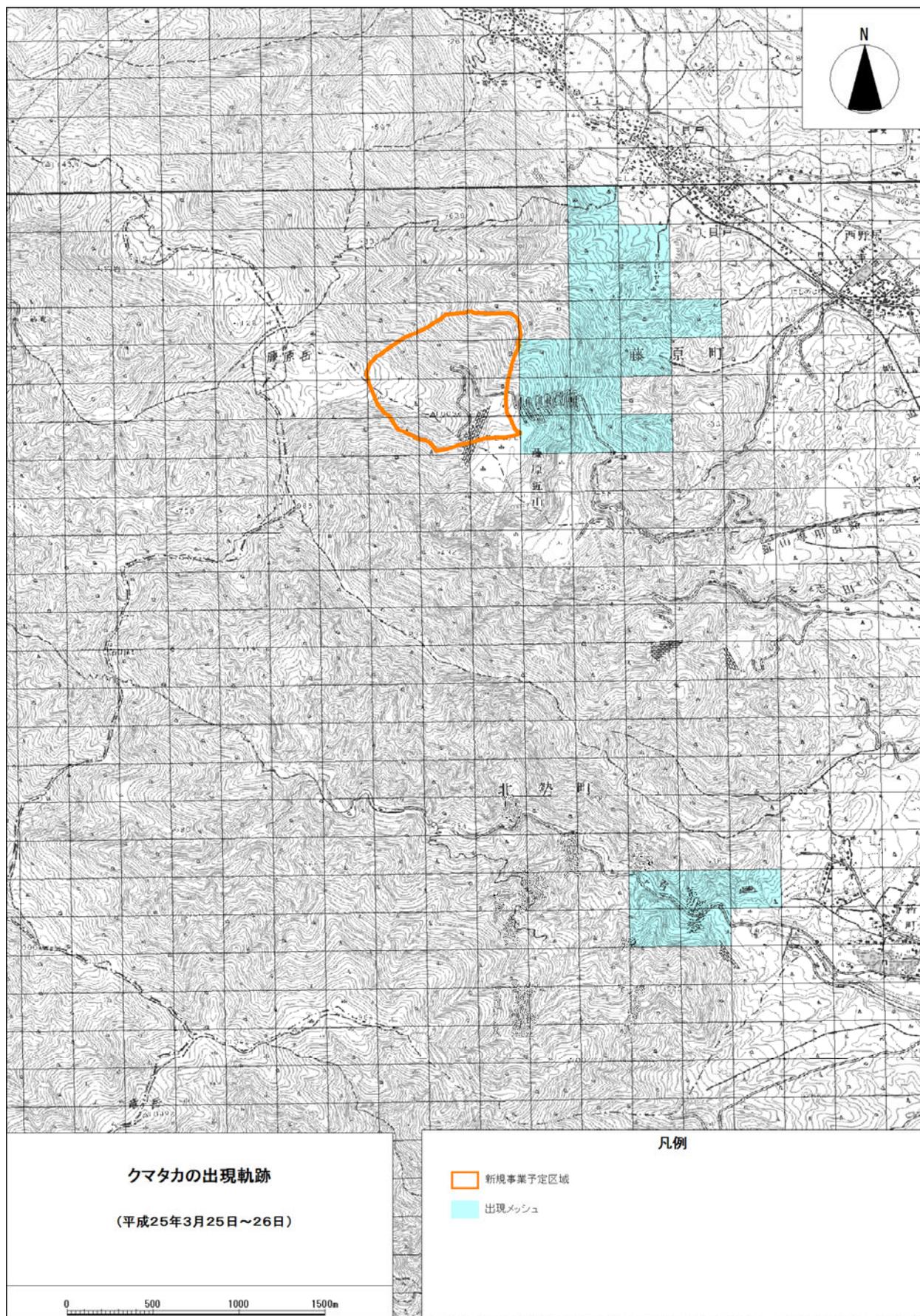


図 2.4.8(2) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 3 月)

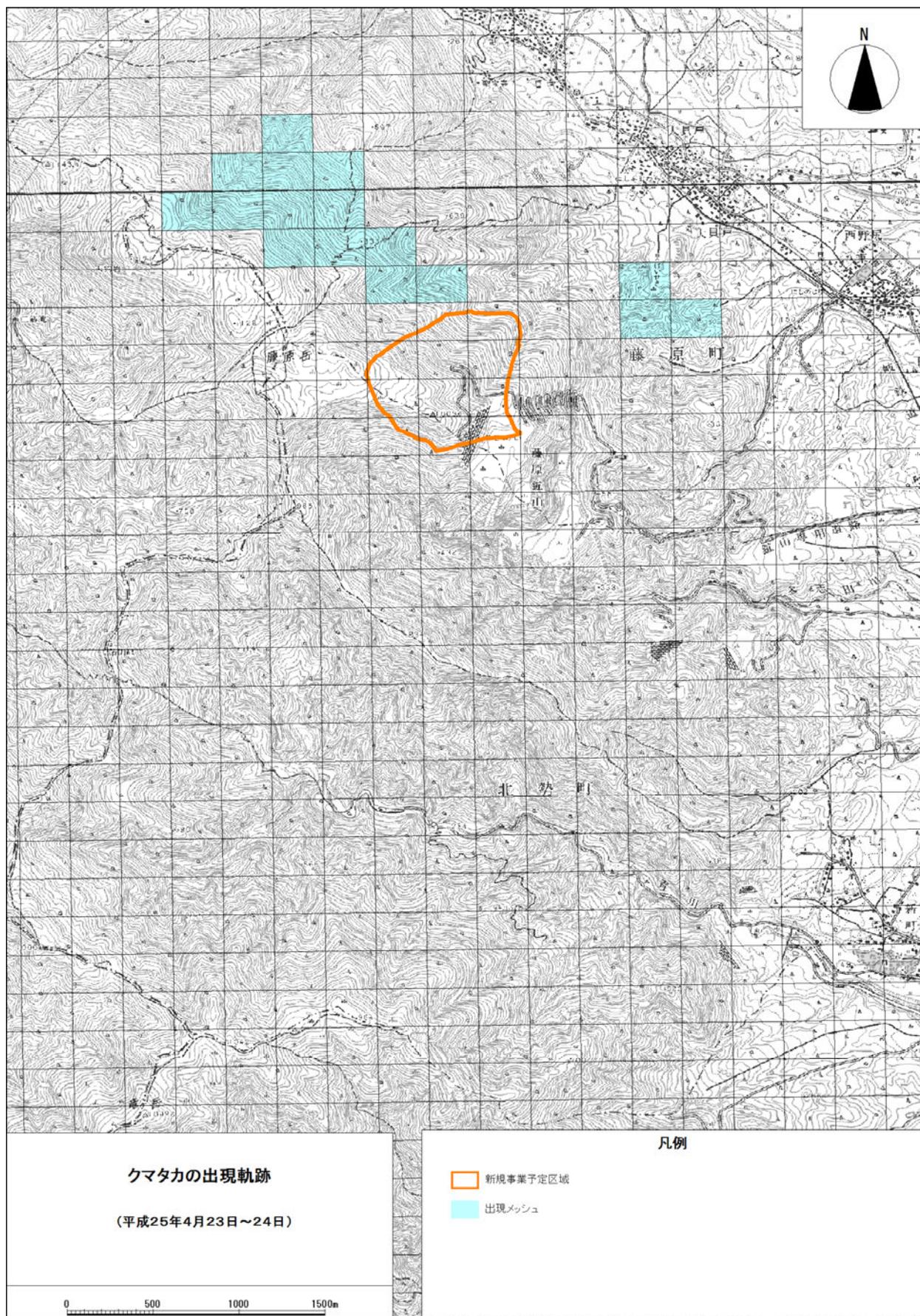


図 2.4.8(3) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 4 月)

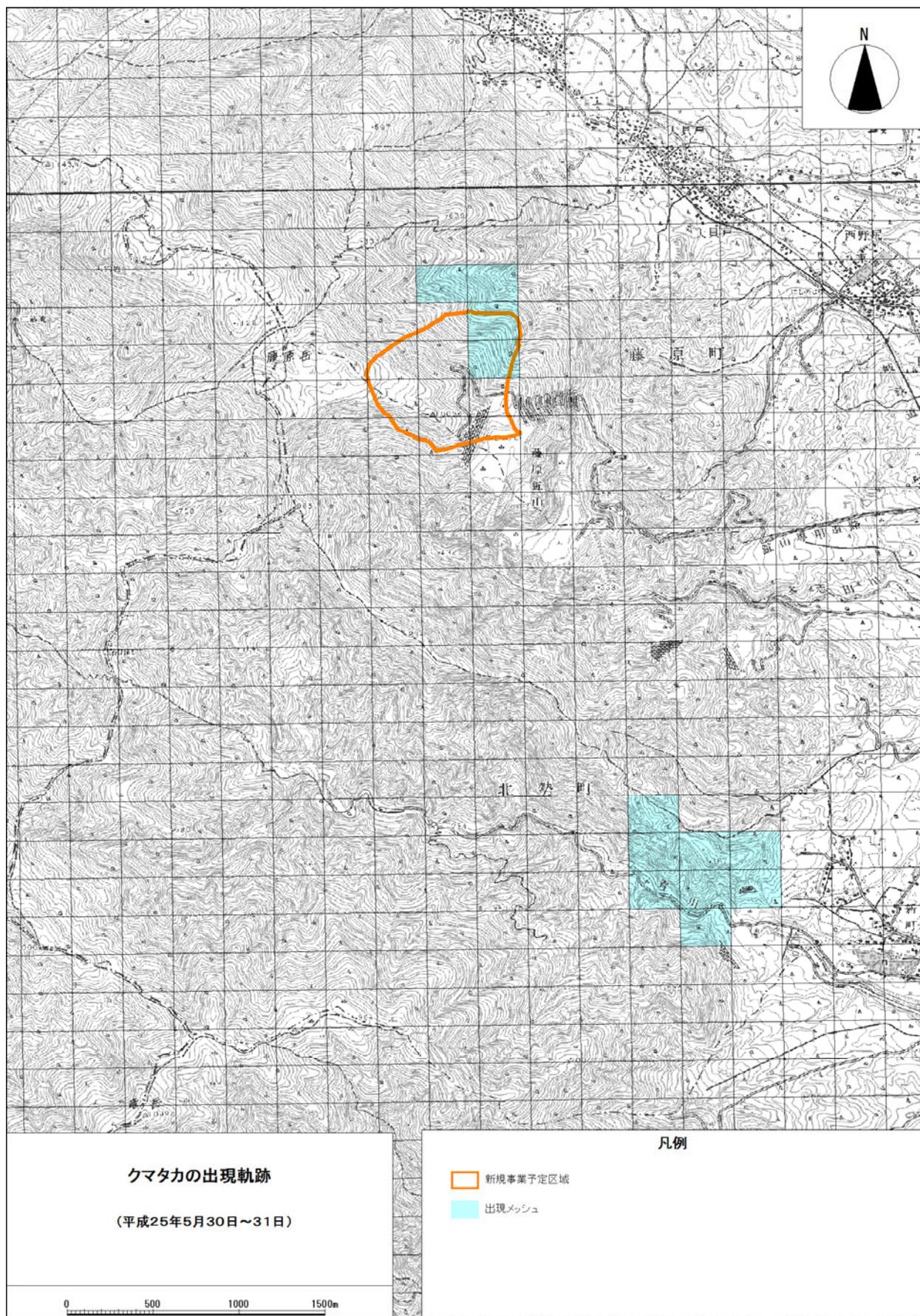


図 2.4.8(4) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 5 月)

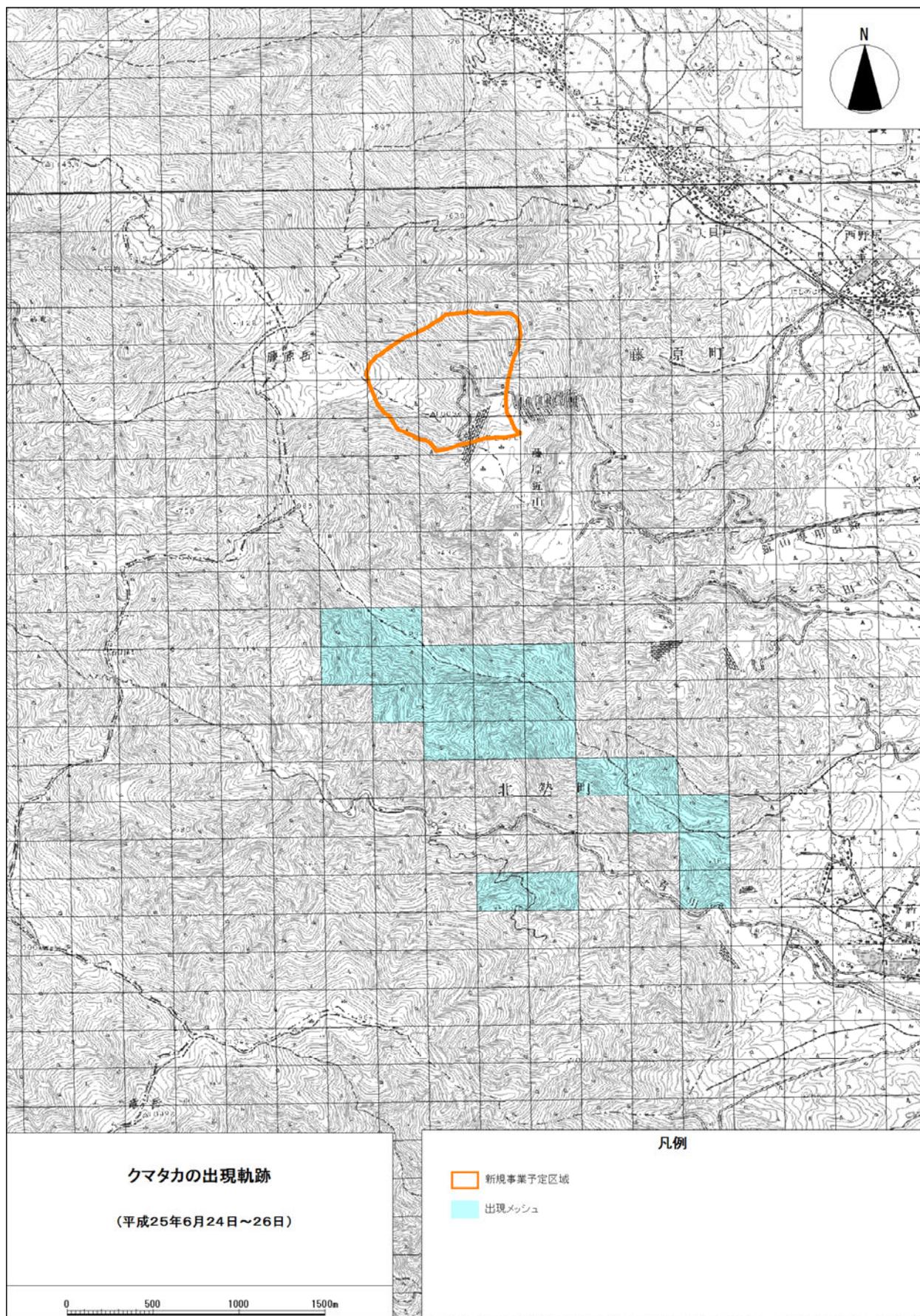


図 2.4.8(5) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 6 月)

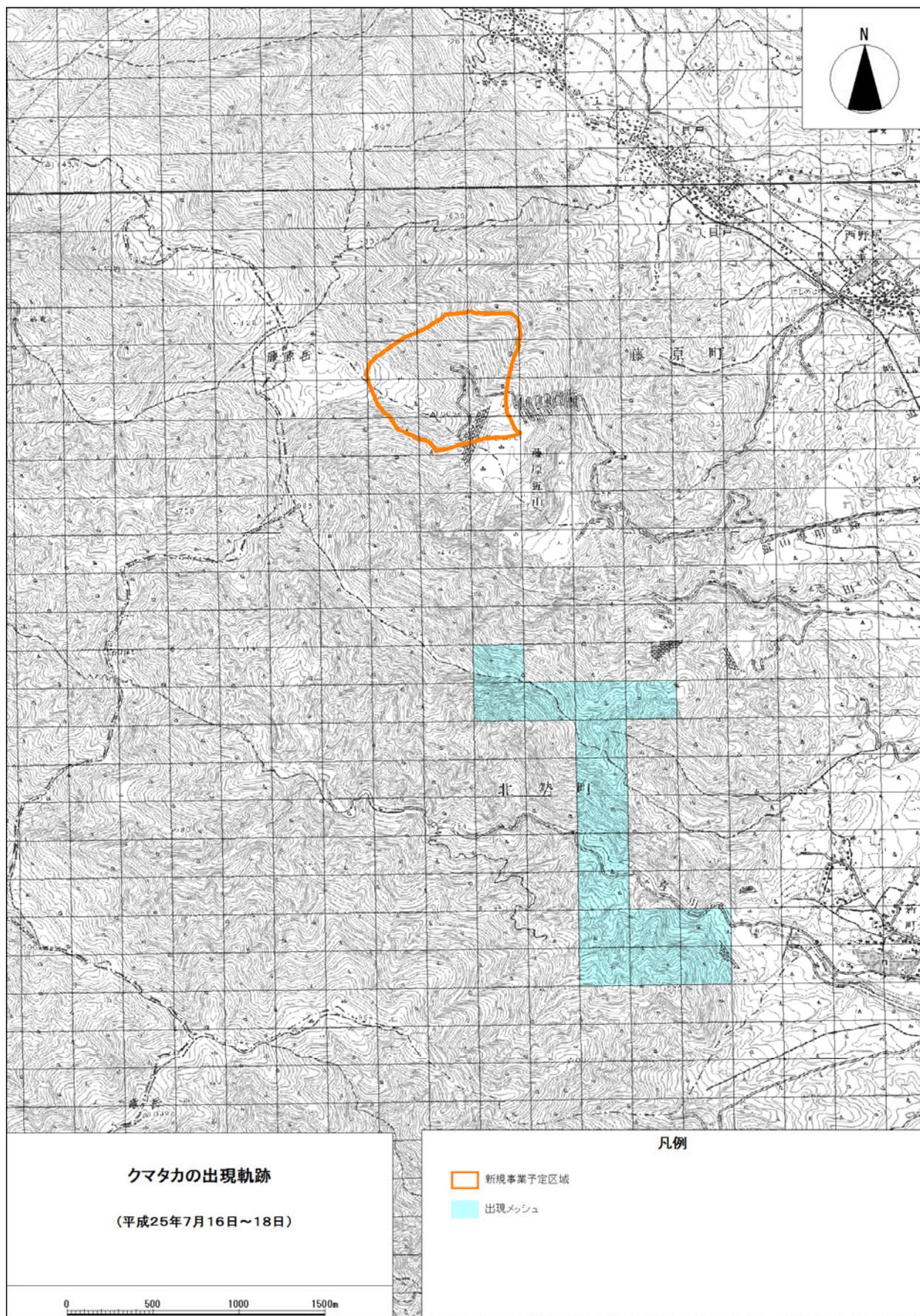


図 2.4.8(6) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 7 月)

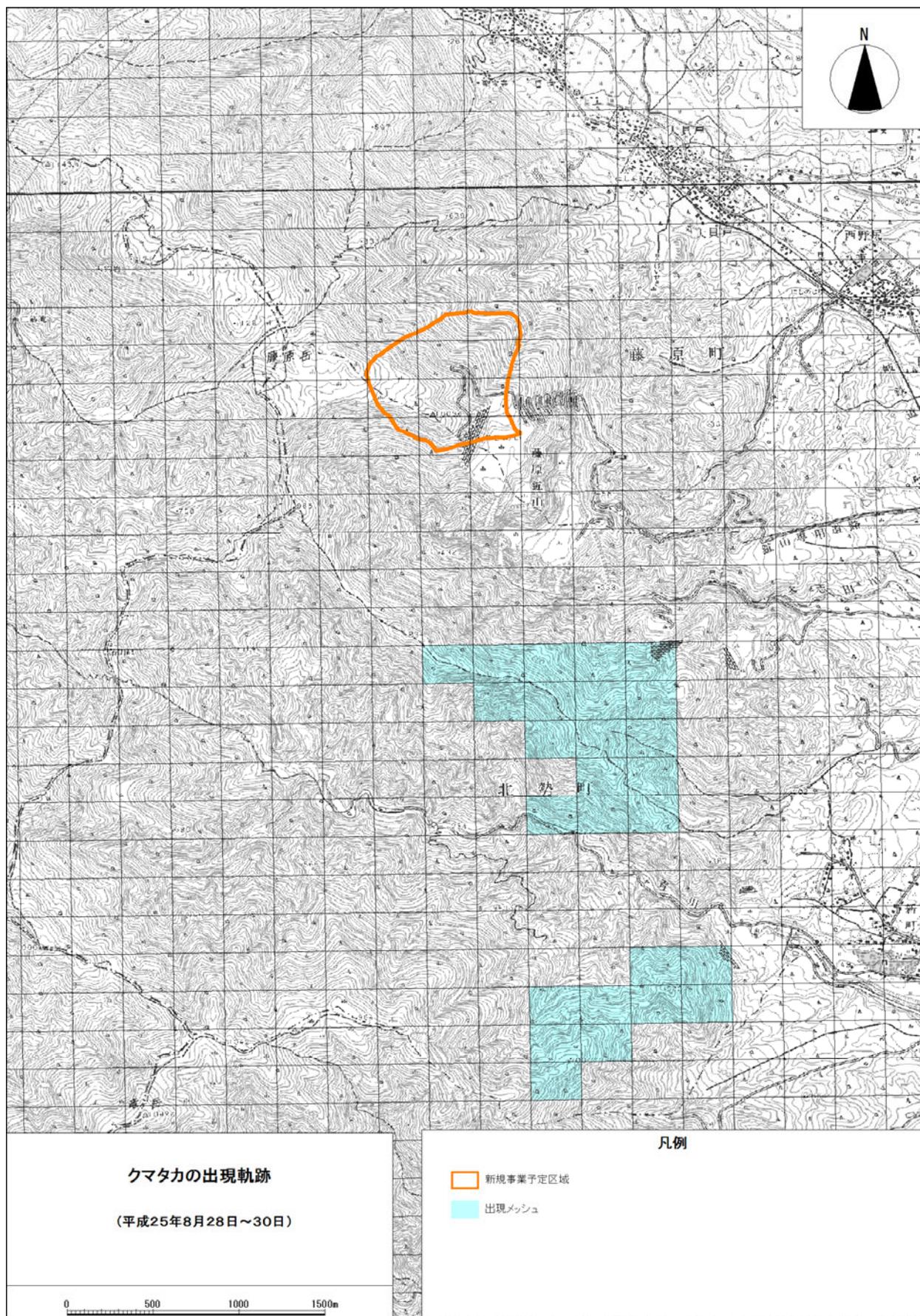


図 2.4.8(7) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 8 月)

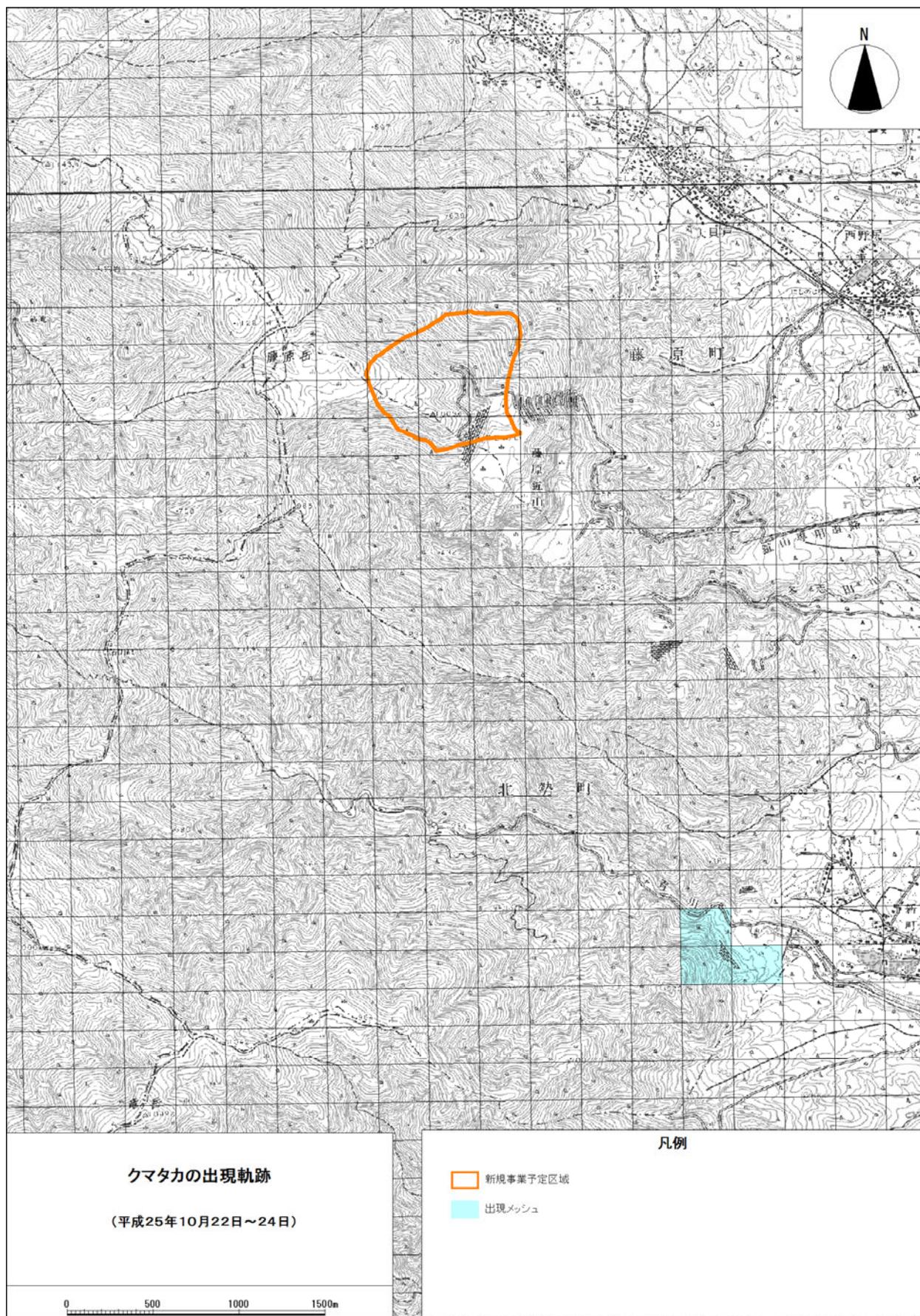


図 2.4.8(8) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 10 月)

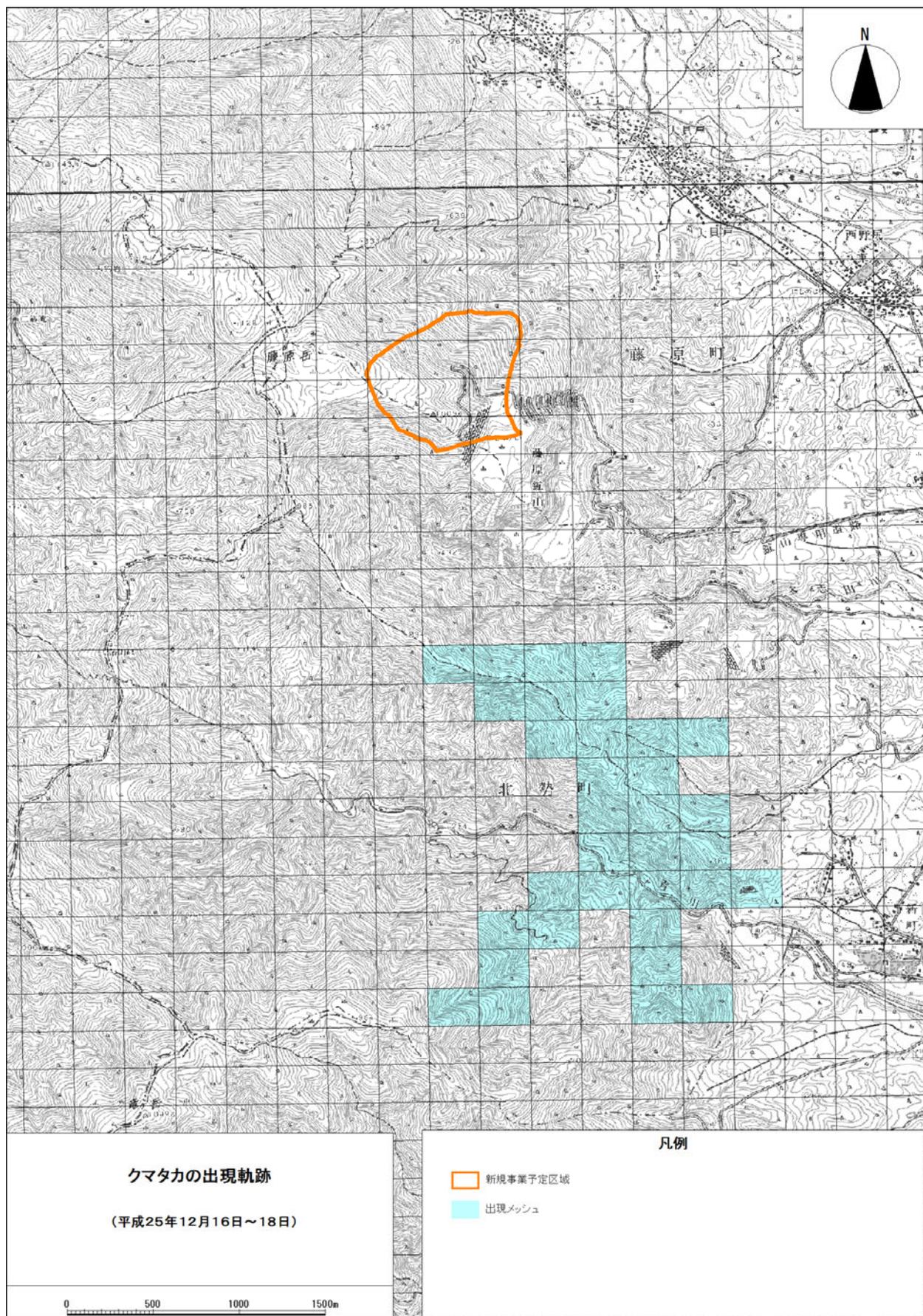


図 2.4.8(9) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 12 月)

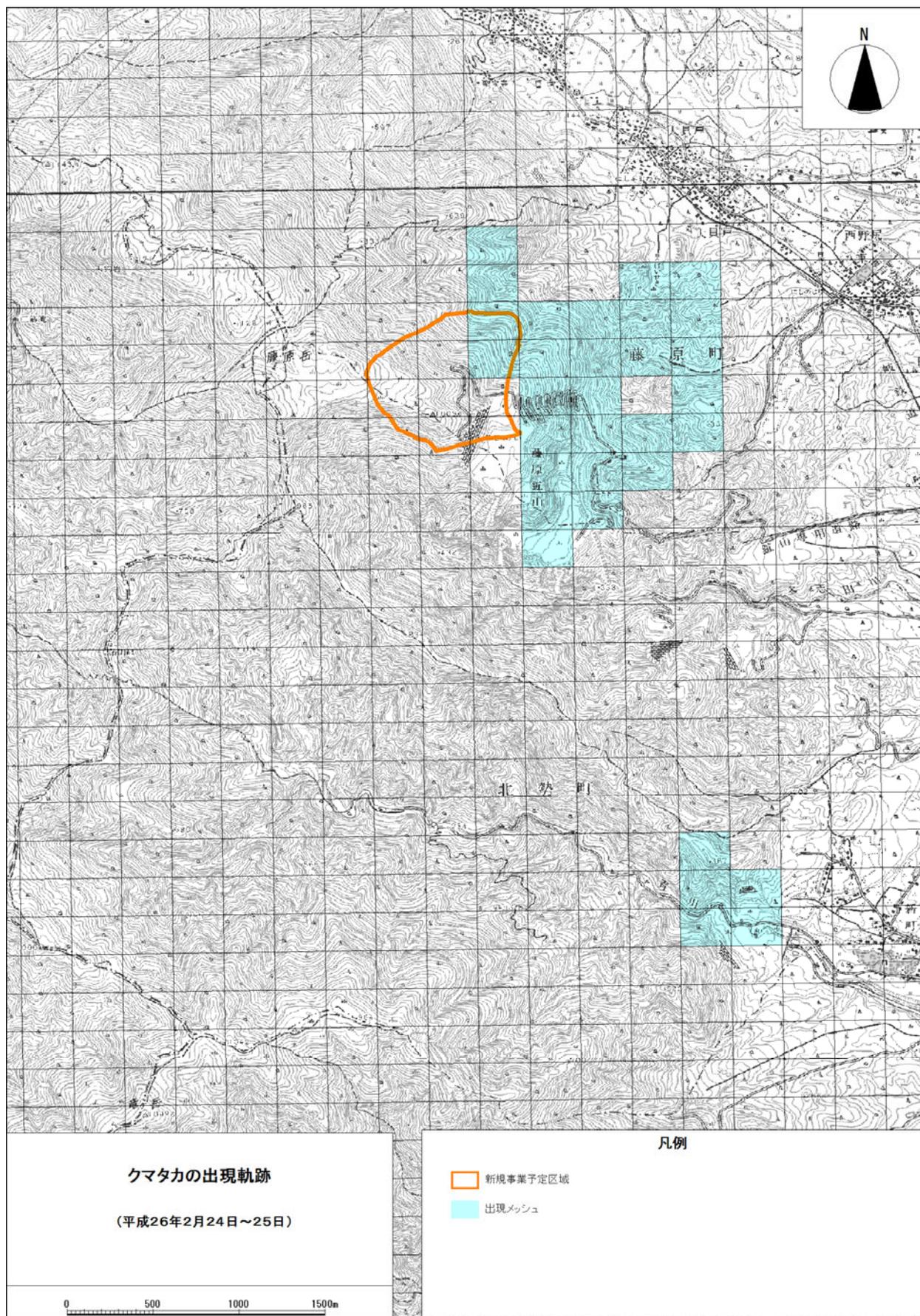


図 2.4.8(10) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 2 月)

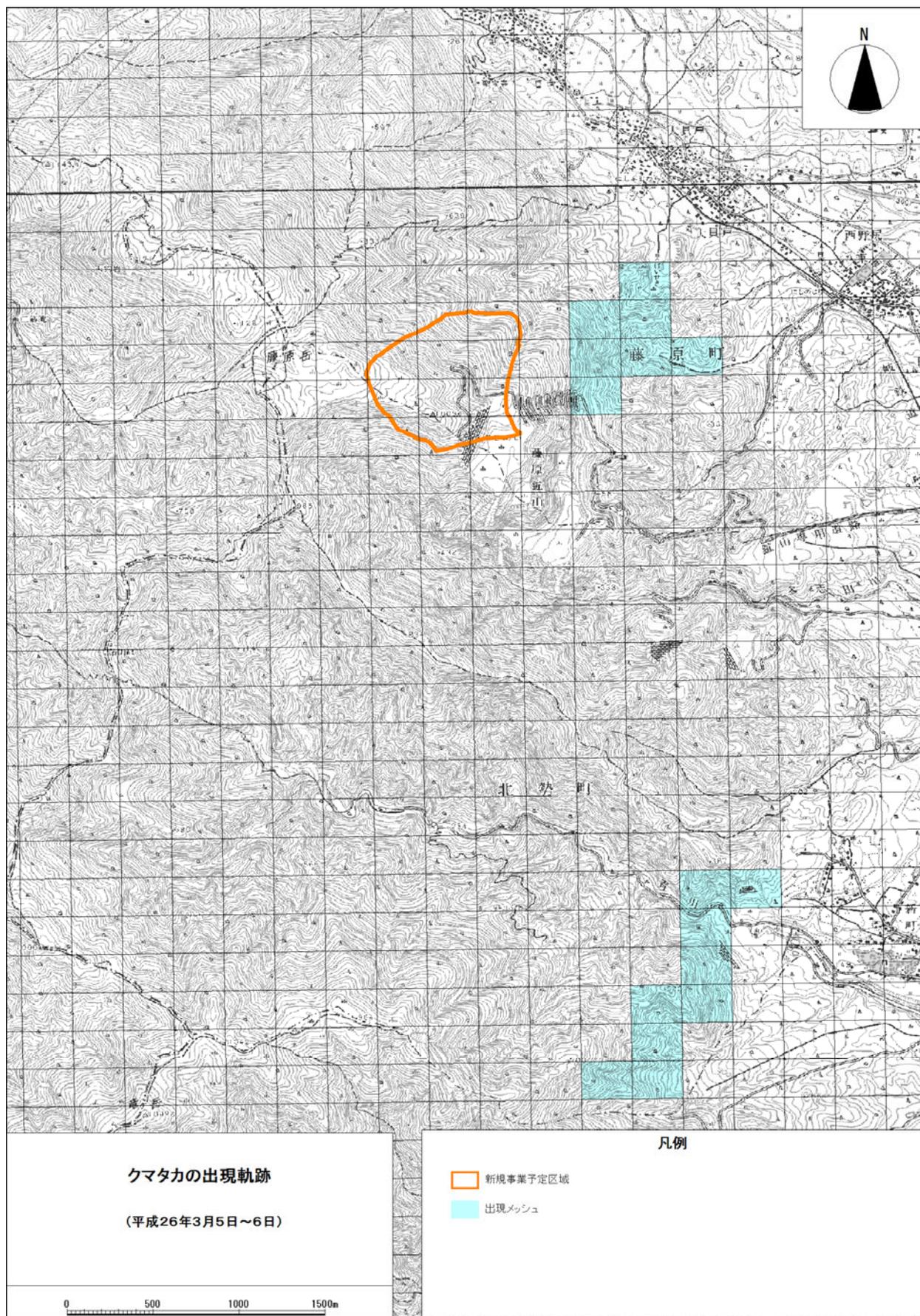


図 2.4.8(11) クマタカの出現軌跡図 (平成 25 年 3 月)

## 7) 環境保全措置に係る検討

調査の結果、平成 26 年はイヌワシ、クマタカともに繁殖の可能性を示唆する結果が確認されている。

このことから、今後も事後調査計画に定めるとおり、当該種へのモニタリングを実施し、必要に応じ、その繁殖活動への影響が低減されるよう保全対策\*を検討することとする。

※環境影響評価事後調査計画では、イヌワシ・クマタカの餌場環境創出の観点より、供用開始までに（試験的に）林冠ギャップを設置するとしている。他の保全対策同様、林冠ギャップについてもその不確実性を考慮し、できる限り早期（平成 26 年 4 月予定）に設置する計画である。

## 8) 有識者への意見聴取

環境影響評価準備書に対する三重県知事意見に記載のある“希少動植物種の保全に係る有識者への意見徴収”について、以下のとおり、本事後調査内容に対する指導を仰いだ。有識者からの意見内容及び意見に対する事業者の対応は、以下に示したとおりである。

件名	藤原鉱山およびその周辺次期原料山開発事業環境影響評価事後調査 (イヌワシ・クマタカの繁殖状況調査に係る意見聴取)
対象者	立教大学 理学部 教授 上田恵介先生
日時	平成 26 年 4 月 25 日 10:30～
場所	立教大学 理学部
<p><b>【内容】</b></p> <p>○平成 25 年繁殖シーズンにおけるイヌワシ・クマタカの利用状況や繁殖状況の説明をした。併せて、平成 26 年繁殖シーズンにおける現在までの状況の説明をした。</p> <p>○同報告に対し、上田先生より下記のご指導・ご助言を頂いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業実施区域周辺では、本報告書に記載のあるとおり、イヌワシ・クマタカがほぼ一般的な習性どおりに繁殖活動を実施している。その成否の違いはあるが、当該地域周辺はこれらの種にとって適した環境が整っている証拠であろうと考えられる。</li> <li>・数年後に事業（採掘）が本格的に動くということで、その時にこれらのつがいごどのような動きをするかが重要なポイントとなる。しっかりモニタリングを実施してほしい。</li> <li>・また、それに併せて、採掘の事業開始後に、これらの個体に忌避行動がみられた場合の保全措置も事前に検討しておくのが望ましい。</li> <li>・繁殖に失敗した時にその原因について追及することは困難と思われるが、周辺で行われている他の工事や事業等、何かいつもと違うことがあった場合には常に記録にとどめておくこと。（報告書に記載するかしないかは別として）</li> <li>・これまでどおり、今後も調査は継続して実施するのが望ましい。</li> </ul>	
<p><b>【事業者としての対応】</b></p> <p>ご指摘頂いた注意事項に留意し、今後も事後調査計画に記載した猛禽類の保護に係る調査を継続してまいります。</p>	

## 資料編

1. 植物重要種の移植写真
2. カナマルマイマイ個体計測写真
3. 猛禽類出現状況表
  - 3-1 イヌワシ
  - 3-2 クマタカ

